

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 1 2 期 だい 1 年 だい 1 回 だい 1 日
(第 1 2 期 第 1 年 第 1 回 第 1 日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2018 (平成 30) 年 4 月 22 日 (日) 午後 2 時 ~ 5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 26 人

アニー タ リシケシュ、アリ ファズラット シャローン、ウエーヴィタ
プラディーパ ラクマル、ウラコワ マハバット、ウル エリック ファーレイ、
大越 ミュートン トミオ、金 海花、児玉 ノンティシャー、ゴタメ
アディカリ アニタ、許 成龍、蔣 香梅、シロコラデユク イリヤ、鈴木
ミリアム、スタント イルワン、崔 敬心、チョ チョ カイン、寺田 ヘザー、
トラン フオン ズオン、バテネフ アルチョム、ポール ウツザル クマル、
ボソ ロドリガス ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ラサル ジュリエン、
劉 愛玲、ロペス ハイロ、ロマンダ デイビッド

(2) 事務局

池之上 室長、浅沼 担当課長、一ノ瀬 担当課長、豊田 担当係長、岩切
担当係長、日下部 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 0 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 委嘱状の交付

(4) 副市長あいさつ

(5) 代表者の自己紹介

(6) 事務局の紹介

- (7) 正副委員長の選出
- (8) 年間日程について
- (9) 市内視察について
- (10) インターナショナル・フェスティバル inカワサキについて
- (11) 事務連絡
- (12) 閉会

【開会】

(開会し、事務局から配付資料の説明)

(委嘱状交付)

【藤倉副市長のあいさつ】

藤倉副市長「川崎市は昨年4月に人口150万人を突破して、もうすぐ151万人になろうとしている。多くの方々に選ばれるまちとなっており、現在、137の国と地域の約3万9,000人の外国人市民の方々が川崎に住んでいる。川崎市では、国籍や民族、文化といった違いを豊かさとして生かし、すべての人が互いに認め合う多文化共生社会を実現するために、2005年に多文化共生社会推進指針を策定した。2015年には、外国人市民の方々と取り巻く環境の変化というものを踏まえ、新たに重点課題を掲げ、指針を改定した。

この外国人市民代表者会議は、地域社会のメンバーである外国人市民の方々の意見を市政に生かし、ともに生きる地域社会をつくることを目的として1996年に川崎市が全国に先駆けて条例で設置したものだ。川崎市では、みなさんからいただいた意見を尊重して、それぞれ担当部署で施策の反映に取り組んできた。先日、4月18日には第11期の委員の方々から提言をいただいたところだ。

これから2年間、みなさんにはこの川崎市に住む外国人市民を代表して活動していただくことになる。ぜひ活発に議論をしていただき、さまざまな提案、提言をいただければありがたい。どうぞよろしくお願いいたします。」

【代表者の自己紹介】

アニータ委員「インドから来た。今回、会議で話し合いたいことは、10年間、日本

に住んでいるあいだにいろいろな経験をして、外国人が気軽にボランティアとして活動できるとよいなと思っている。日本人との交流を深めることもできるし、まちの一員として外国人も住みやすくなると思う。」

アリ委員「フィジーから来た。話し合いたいことは高齢者の問題、それと環境問題だ。この会議にはさまざまな国の方たちがいるので、まずはお互いの違いを知って、そのうえで川崎市が生き生きとしたまちになるように話し合っていければと思っている。」

ウエーヴィタ委員「スリランカ出身だ。日本に来て12年になる。会議で話し合いたいことは、一言で言えば、みなさんが住みやすいまちになるように、何かお手伝いできないかというのがあった。ただ、外国人という視点でいろいろ主張するだけではなく、協力しあって、同じ地域でお互いに支え合いながらどうやってうまく生活できるか、ということ話し合いたい。」

ウラコワ委員「キルギス出身だ。話し合いたいことは、外国人の就労・就職支援だ。日本は今、少子化、高齢化にともなって働き手が少ないという大きな問題を抱えている。そうしたなかで、外国人にとっても期待されていると思うが、一方で外国人の就労・就職にはたくさんの課題がある。それと、外国人市民の保育園の問題についても話し合いたい。」

ウル委員「西アフリカのリベリアから4年ほど前に日本に来た。妻は日本人だが、日本語は難しいので家では英語でコミュニケーションをとっている。区役所などでも日本語がわからなくてよく困っている。」

大越委員「ブラジルから来た。いろいろ話し合いたいことがあるが、一番は日本語のことだ。自分が最初に日本に来たときに大きい壁だと思ったのが、やっぱり日本語のことだった。これからもたくさんの外国人が日本に来ると思うが、日本語の必要性について話し合いたい。」

金委員「中国から来た。私は現在、NPOを通じて日本の小学校と中学校で外国人の子どもたちに日本語の指導をしている。そのなかで、子どもだけではなく、保護者も日本語が話せずに先生たちと交流できず困っている人がたくさんいる。会議では、こうした問題について話し合いたい。」

児玉委員「タイから来た。話し合いたいことは、私は母親として外国人のハーブの子どもがいるのだが、いじめとか差別の問題を話し合いたい。自分の子どもが将来、いじめられるかもしれない。そうした問題が起きないように、日本もあ

なたにとっての1つの国だと自信をもって言えるようにできたらよいと思っ
ている。」

ゴタメ委員「ネパールから来た。日本には6年前に来たが、日本語はあまり上手で
ない。話し合いたいことは、外国人がたくさん増えているが、外国人は日本語が
わからず、日本人はあまり英語が話せない。このことについて話し合いた
い。」

許委員「中国出身だ。2007年に留学生として日本にやって、今年で12年目
になる。日本には10年以上住んでいるが、大半は関西に住んでいたので川崎の
ことはよく知らない。話し合いたいことは保育の問題についてだ。川崎市が
外国人にとっても住みやすいまちになるように、微力だが貢献していきたい
い。」

蔣委員「出身は中国だ。私は11期からなので継続だ。11期で意識した『要求か
ら参加へ』を12期でもぜひ継続したい。話し合いたいことは、子育てと子ど
もの教育についてだ。日本はとても住みやすく、私は自分が住んでいる宮前
区のまちも大好きだ。外国人市民として、日本人市民とも協力して、もっと
よいまちづくりに貢献できたらと思う。」

シロコラデユク委員「私はソ連の生まれで、ロシアの出身だ。話し合いたいことは、
郷に入っては郷に従えという言葉があるが、やはり私たちは日本の文化、
日本の習慣を守らなければいけないと思っていて、そのため日本語をはじめさ
まざまなことを学んだり、日本の社会に貢献するように外国人として何かしたり
しなければいけないと思っている。」

鈴木委員「フィリピン出身だ。話し合いたいことは、日本では今、外国人なしでは成
り立たないところがあると思う。そして、外国人が増えると、何か問題が起き
ることも避けられないと思う。そうしたときに、外国人だから仕方ないとかで
はなく、外国人だからこそできるという社会に変えられたらと思っている。」

スタント委員「インドネシアから来た。話し合いたいことは、子どもの教育について
だ。11期での経験をみなさんと共有しながら、2年間いろいろ議論できたら
と思っている。」

崔委員「出身は韓国のソウルで、日本は15年目、16年目になる。話し合いたいこ
とは、長く日本に住むほどとても住みやすい国だと実感しているが、外国人と
日本人がお互いのことを知ればもっと住みやすいまちになると思っているので、

そのことについて話し合いたい。」

チョ委員「ミャンマーから来た。話し合いたいことは、健康診断とか病気や保険についてだ。」

寺田委員「米国から来た。話し合いたいことは、国際結婚している人が多いと思うが、文化や習慣が違ったりするので、そのサポートだ。」

トラン委員「ベトナム出身で日本に来て9年目だ。話し合いたいことは、日本人と外国人のあいだにまだ大きなギャップがあると思うので、みなさんとアイデアを共有してどうやって住みやすい環境をつくれるのか話し合いたい。」

バテネフ委員「ロシア出身だ。話し合いたいことは、公共サービスのデジタル化で、外国人にとっても日本人にとっても利便性や透明性が向上するようなアイデアについて話し合いたい。」

ポール委員「バングラデシュから来た。日本に来て3年目だ。川崎市は住みやすいと感じていて、具体的なテーマについては今後話し合っていきたい。」

ボソ委員「出身はポリビアで、日本には今年で20年になる。川崎では16年目だ。話し合いたいことは、私自身もそうだったが、外国人は『こうやって欲しい』とよく言うが、明るい地域、住みやすいまちをつくるには、やはり自分たちは市民としてどういった権利があって、どういった義務があるのかということをよく知るべきだと思う。それと、市からの情報についてだ。」

前田委員「国籍は韓国だが、生まれも育ちも日本だ。父が韓国の在日二世で、母がフィリピンのもとで育ってきた。話し合いたいことは、初めて日本に来るさまざまな外国人や小さな子どもから大人までのコミュニケーションの場、ふれあいの場というのを地域でどんどん広げて行ければと思う。それと、就労の支援もできればよいと思っている。」

ラサル委員「フランスから来た。話し合いたいことは、年金や国民保険、市民税など、わかりにくいのでもう少し説明があるとよいと思っている。あとは、子どもが生まれたらどうすればよいかとか、保育園についても説明が欲しい。」

劉委員「出身は台湾だ。話し合いたいことは、育児と国際交流についてだ。3か月前に長女を産んで、これから川崎市で長く住んでいきたいと思っているので、近所の人とも楽しく過ごしていけるような住みやすいまちをつくっていただけらと思う。」

ロベス委員「ベネズエラから来た。話し合いたいことは、長く日本に住むつもりでい

ると、両親のことや子どものこと、病気になったらどうするなど、いろいろな不安があると思うが、どうすればそうした不安を解消できるかを話し合いたい。」

ロマンダ委員「日本には12年住んでいる。出身はカナダだ。話し合いたいことは、文化やマナーなど国際理解についてだ。」

【事務局の紹介】

(事務局池之上室長から事務局の紹介)

(藤倉副市長、鈴木局長を囲んで記念撮影。その後、休憩をはさんで再開)

【正副委員長の選出】

<仮議長の選出>

池之上室長が仮議長を務める (全員賛成) →承認

池之上仮議長「今の説明について質問はあるか。」

ボソ委員「委員長や部会長などになると、日本語で資料をつくらなければいけなかったりするか。」

高橋専門調査員「会議の資料は、基本的には事務局が作成をする。みなさんは、欲しい資料のリクエストを事務局にする。事務局はそれをもとに資料を作成する。委員長や副委員長、部会長が資料を作成するわけではない。」

ボソ委員「もう1つ、事前の打ち合わせについてだが、先ほど6時半と言っていたが、それを15分か30分ほど遅らせることはできるか。」

高橋専門調査員「時間に関しては、委員長、副委員長、部会長の4人と事務局で調整して決める。みなさんが遅くてもよいということであれば、遅らせることはできる。」

ウラコワ委員「委員長、副委員長と部会長は1人2役で同じ人になることはできるか。」

高橋専門調査員「今まで、委員長か副委員長と部会長を両方やった人はいない。それぞれ全体会と部会の進行を担当するが、両方の進行を担当するのは負担が大きいと思う。」

ウェーヴィタ委員「委員長、副委員長の役割は司会進行だと思うが、1人のメンバー

として自分の意見を言うこともできるか。」

池之上仮議長「自分の意見を言うてはいけないということはない。ただ、できるだけ会議の進行に力を入れてもらえるとよい。」

ロペス委員「委員長と副委員長は、途中で変更できるか。」

高橋専門調査員「仕事の事情や引っ越しなどで代表者を辞めた場合には変わったこともあるが、そうではない場合に途中で変更したことはない。」

ロペス委員「変更する方法はあるか。」

高橋専門調査員「基本的には変更しないということで選んでいただきたい。何か特別な事情が発生したら、まずは事務局に相談していただき、対応を考えられればと思う。」

ロペス委員「投票前に、候補者に何か質問することはできるか。」

高橋専門調査員「候補者には1分ほどのPRをしてもらう。基本的にはそれをベースに選んで欲しい。質問も受けつけられるが、時間も限られているので、たくさん質問が出で投票まで進まなくなってしまうのは困る。」

ウラコワ委員「委員長と副委員長は2年にしなければいけない理由はあるのか。1年ずつの方がよいのではないか。」

高橋専門調査員「条例や要綱で2年と決められているわけではない。ただ、会議をどうやってスムーズに進めていくのかというのは難しく、私の経験上でも同じ人がやった方がよいと思う。」

池之上仮議長「それでは、委員長と副委員長の選出方法は事務局案でよいか。

(異議なし) まずは、委員長から決めたい。立候補と推薦をどうぞ。」

立候補 — 金委員

推薦 — スタント委員 (→承諾)

蔣委員 (→辞退)

ポール委員 (→辞退)

ポソ委員 (→承諾)

アリ委員 (→辞退)

ウル委員 (→承諾)

前田委員 (→承諾)

ウラコワ委員 (→辞退)

池之上仮議長「それでは、候補者のみなさんには順番にスピーチをお願いする。」

金委員「これからみなさんで議論していくが、以前、商社で人事担当をしていたので、意見をまとめるのは得意だと思う。」

スタント委員「第11期では、私は一委員として議論していたが、委員長がまとめるのが上手だった。今度はその経験をみなさんと共有して、サポートができればよいと思っている。」

ボソ委員「私は日本人ともいろいろな活動をしているので、みなさんの意見をまとめるのにその経験が生かせると思う。」

ウル委員（通訳：ウェーヴィタ委員）「私はずっとボランティア活動をしてきた。その経験を生かして、日本に来る外国人をサポートできればと思う。」

前田委員「役割としては、意見をまとめるということが一番大事だと思っている。よく発言する人の意見ばかりに偏らないように、冷静に判断したい。言葉の壁ということもあり、話が逸れてしまうこともあると思うが、お互いに理解しあいながら軌道修正していければと思う。」

池之上仮議長「それでは、質問はあるか。」

ロペス委員「話せる言語を教えてください。」

金委員「中国語、韓国語と日本語だ。」

ウル委員「英語だ。」

ボソ委員「日本語、スペイン語とポルトガル語はある程度話せる。英語は、理解はできるが自分から話すことはできない。」

前田委員「日本語と、英語は100%ではないが話せる。あとは、タガログ語とビサヤ語と英語をミックスで使える。ヒアリングは問題ない。」

スタント委員「日本語とインドネシア語、あとは英語と中国語だ。」

アリ委員「委員長ということで代表者会議の顔になると思うが、どういうPRをするか。」

金委員「外国人は、異文化や言葉の壁ということで日本人とのコミュニケーションが難しい部分もあるが、まずはお互いの文化を理解しあうことが大切だと思う。」

ウル委員（通訳：ウェーヴィタ委員）「フェスティバルやイベントを通じて、日本人とも理解しあいたい。」

ボソ委員「イベントなどにはできるだけ参加したい。会議で学んだことなどを、他の外国人に伝えていくという役割もしていきたい。」

前田委員「川崎駅などでは歌を歌っている人もいたりする。可能なら、同じように駅などでPRをするのもよいかもしれない。また、今はインターネットも重要な情報ツールなので、会議での活動や会議外での活動の様子などを各自がSNSで発信していくということもできるのではないかと思う。」

スタント委員「個人的にというよりは、みなさんで一緒にPR活動をしていくことになると思う。」

<投票>

[1回目]

金委員 (→ 2 票)

スタント委員 (→ 9 票)

ポソ委員 (→ 6 票)

ウル委員 (→ 3 票)

前田委員 (→ 6 票)

池之上仮議長「過半数に届いていないので、上位の2位まででもう一度投票する。候補は、スタントさん、ポソさん、前田さんだ。」

[2回目]

スタント委員 (→ 12 票)

ポソ委員 (→ 6 票)

前田委員 (→ 8 票)

池之上仮議長「過半数に届いていないので、上位の2位まででもう一度投票する。候補は、スタントさんと前田さんだ。」

[3回目]

スタント委員 (→ 15 票)

前田委員 (→ 9 票)

無効 (→ 2 票)

池之上仮議長「それでは、委員長はスタントさんに決まった。続いて、副委員長を決めたい。立候補か推薦はあるか。」

立候補 - 前田委員

推薦 - ポソ委員 (→ 承諾)

ウエーヴェイタ委員 (→ 辞退)

<投票>

[1回目]

前田委員（→14票）

ボソ委員（→12票）

池之上仮議長「それでは、副委員長は前田さんに決定した。これで委員長と副委員長が決まったので、簡単にあいさつをお願いします。」

スタント委員長「みなさんをサポートできるように頑張りたい。2年間よろしくお願
いします。」

前田副委員長「スタントさんのサポートも含め、みなさんと議論しながら一緒に力
を合わせて会議を進めて行ければと思う。よろしくお願
いします。」

池之上仮議長「このあとの進行について、委員長、副委員長と事務局で簡単な打ち合
わせをするので5分休憩とする。」

【年間日程についておよびその他の議事について】

スタント委員長「それでは会議を再開する。まずは、2018年度の年間日程につい
てだ。事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明）

スタント委員「何か質問や意見はあるか。（なし）それでは、決をとる。賛成の
人は手を挙げてください。（全員賛成）案のとおり決定した。年間の会議
日程が決まったので、毎回の会議に出席できるように予定を空けておいてくだ
さい。次に、市内視察についてだ。事務局から説明をお願いします。」

高橋専門調査員「予定していた時間よりも大幅にオーバーしている。市内視察につい
ては、今日決めなければいけないことではないので、次回以降に話し合うとい
うことでよろしいか。」

スタント委員長「次回以降、審議するということによいか。（全員賛成）次は、
インターナショナル・フェスティバルinカワサキについてだ。事務局から説明
をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明）

スタント委員長「何か質問や意見はあるか。」

許委員「子どもを連れて参加してもよいのか。」

高橋専門調査員「お子さんを連れてきても大丈夫だが、保育はない。」

児玉委員「参加するとしたら、10時から16時半まで参加しないといけないのか。」

高橋専門調査員「これまで、1日通しで参加できる人、午前だけ参加できる人、午後だけ参加できる人、というふうに希望を聞いてやってきた。全員が最初から最後までいなくてもよい。」

寺田委員「事前の準備にはどのくらいかかるか。」

高橋専門調査員「詳しくは、次回以降あらためて説明するが、みなさんから新しい企画のアイデアが出なければ事前に集まって準備する必要はないと思う。当日、早めに集まって準備すれば間に合うと思う。」

ウラコワ委員「最低何人以上参加しなければいけないという決まりはあるか。」

高橋専門調査員「とくにはない。自分が参加するかどうかではなく、代表者会議として参加した方がよいかどうかということで考えて欲しい。」

ゴタメ委員「子ども以外の家族を連れてきてもよいか。」

高橋専門調査員「子どもだけではなくて、家族や友人を連れてきても大丈夫だ。」

スタント委員長「それでは、インターナショナル・フェスティバル inカワサキについて、参加に賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）参加ということで決定した。内容については、次回以降審議したい。今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・2017年度の市長報告について（報告）
- ・川崎市観光ガイドブック「川崎日和り」について（配付）

スタント委員長「これで、2018年度第1回第1日の川崎市外国人市民代表者会議を終わりにする。お疲れさまでした。」